

飯舘村こども議会

2月19日、村の議場で『こども議会』が行われました。コロナ禍などの影響もあり議場で一般質問を行う『こども議会』は6年ぶりです。今回は2部構成で企画され、第1部で一般質問を、第2部で『いいたて学』の成果発表を行いました。

第1部 一般質問

6年生議長



5・6年生の7人の児童が、飯舘村こども議会議員として、一般質問を行いました。通常の議会と同じく村長をはじめ村の幹部が出席し、議員の質問に対し答弁を行いました。※答弁は要約です。

児童の力で議会を運営 一般質問も堂々と

6年生の児童が、議会議長として一段高い議長席に座り、姿勢よく落ち着いた態度で『こども議会』を進行しました。議員の皆さんも、堂々と一般質問に立ち、自分の意見や提案を述べました。

また、4年生も議場に足を運び、傍聴席で『こども議会』を傍聴しました。1～3年生の児童は、いいたて希望の里学園で、議会中継配信を視聴しました。



4年生は傍聴券に必要事項を記入して傍聴席に座りました。



議員の質問や提案を受けて、村長、教育長、各課の課長が答弁を行いました。



6年生議員



(質問)「あぶくまもち」のもち米のように有名でおいしいお米が増えてきたので、すぐに食べられるようにするいいと思いました。だから、農家さんや村の人達がすぐに精米できるように、飯舘村に精米所を増やすのはどうですか。

(産業振興課長の答弁) JA飯舘支店にコイン精米所があります。令和6年度の「あぶくまもち」の出荷量は34tでした。米の生産量の増加に合わせて関係機関と協議し検討していきます。



(質問) 飯舘村の冬の夜は、特に暗いと感じます。外が暗すぎると動物が出てきたり、車や徒歩などで事故が増えたりすると思います。暗いところを減らすために、街灯を増やしてみてもいいですか。

(住民課長の答弁) 役場が管理する街灯・防犯灯は789基あり、自分で街灯を設置する方には補助金も設けています。村は、交通死亡事故ゼロの日が2,700日以上続いています。皆で交通ルールを守り、事故を防止することも大切と考えます。また夜は暗く感じますが、村の星空は美しく、大学の観測所なども置かれています。

(質問) 他のところに住んでいる子どもは、お家の近くの学校に通っていると聞きました。飯舘の子ども達が、飯舘に住んでなくても村の学校に通えるのはどうしてですか。

(教育長の答弁) 本来は「通学区域」という範囲がありますが、飯舘村は原発事故の影響で避難をしたため、村に住んでなくても、その後他の市町村に引っ越しをしても、村の子どもとして、「いいたて希望の里学園」に通うことができるようになっています。

より暮らしやすく



魅力を生かした村づくりを

ふるさとを見つめて調べて考えた

具体的で心のこもった提案

児童の皆さん

ありがとうございました！

6年生議員



(質問) 飯舘には習い事をするところがなくて、習い事をするには遠くに行かなければいけません。サッカークラブやピアノ教室に通いたくても、学校が終わってから行けるところはありません。学校の後に、飯舘の子どもたちが自分のいいところをもっと伸ばせるように、習い事ができる場所をつくってみてはどうですか。

(生涯学習課長の答弁) 震災以前は野球やサッカーなどのスポーツ少年団、ピアノや書道などの習い事教室がありました。新たな場所をつくることは簡単ではありませんが、村にはスポーツや習い事を教えられる人がいますので、皆さんに聞いていきたいと思います。

(質問) 村に住んでいる子は病気になった時やけがをした時に、「いいたてクリニック」はお休みの日もあるので、川俣町や南相馬市の病院に行っています。もっと元気に過ごしたり、困ったときにすぐに命を助けられたりするように、病院を増やしてはどうですか。

(健康福祉課長の答弁) 村で唯一の診療所「いいたてクリニック」は現在週2日の診療です。村は、往診や訪問診療を行うためお医者さんを村の費用でお願いし、訪問看護ステーションとも連携して、診療日以外の医療に対応しています。小さな村に総合病院などを誘致することは難しいため、近隣の医療機関と連携しながら、高齢者や運転が困難な方の送迎も行っています。また、休日や深夜の緊急時は当番制度のある病院に対応いただいています。

(質問) 私はたまにふれあい館で本を借りていますが、幅広い年代の人が読める本が少なく、今では少し物足りなく感じています。だから、幅広い年代の人も読めるように、本を集めて、多くの人が利用できる図書館をつくるのはどうですか。また、図書館に読書メッセージコンテストで賞をもらった人の作文などを展示すれば、参考にできるし、本を読む人が増えると思うのですが、いかがですか。

(生涯学習課長の答弁) 現在、交流センター「ふれ愛館」には約5,000冊の本があります。新たに図書館をつくることは難しいと考えますが、自分が読みたい本をリクエストすることができますので、ぜひ活用してください。また、交流センターで行っている読書メッセージの展示は、今後学園でも行いたいと考えています。



5年生議員

(質問) 高校や大学は、入学するだけでもお金がかかります。また、村外の高校や大学に通うには引っ越ししたり、バスや電車の交通費を払ったりする必要があります。そのため、飯舘村に高校や大学をつくってみてはどうですか。

(教育課長の答弁) 村に高校や大学があれば、地域が元気になる可能性があり、実際によい結果を得ている市町村もあります。しかしながら、高校や大学の設置には、内容の検討や建物の準備などに多くの時間とお金がかかるという難しい問題があり、よい面と難しい面の両方を住民と話し合って進める必要があります。現在は皆さんへの支援として、通学の交通費や授業料などに役立てていただく「高等学校等通学費等貸付事業」と「奨学金貸付事業」を行っています。

(質問) 飯舘村にある「ふかや風の子広場」は、遊具が小さかったり、年齢制限があったりして、私達高学年が遊ぶ遊具がありません。しかし、風の子広場に建てると小さい子ども達が遊べなくなってしまうので、使われなくなった公園や空き地を整備し、アスレチックや大きな公園を建ててはどうでしょうか。

(村づくり推進課長の答弁) ご質問の通り、風の子広場の遊具は主に低学年が対象ですので、高学年でも楽しみなが体を動かせる施設があることは望ましいと考えます。これから進める「村民の森あいの沢」の整備では、高学年以上の方が楽しめる施設も考えながら進めたいと思います。